



推薦・AO入試は、誰にでもチャンスはあり、社会人基礎力も身に付けることができると藤岡慎二氏

験として③④⑤のうち、計3つ程度が行われます。

①評定平均は、高校3年の1学期までの各教科を5段階評価したものの平均値。公募制推薦では、入試方式の中に含まれることが多いのですが、AO入試では、半分以上の大学で不要です。求める大学の数値も3.2～4.0程度とそれほど高くありません。

②の志望理由は、「なぜ、大学に行きたいのか？」をテーマに400～2,000字程度で志望理由を記述するもので、推薦・AO入試の根幹をなすほど重要。可否の9割を占めるといって大学もあります。大学に入ってから研究したいか、なぜ、そう思うようになったのかを書きますが、大切なのは明確な志望理由。志望理由書のポイントは2つあり、ひとつは過去・現在・未来が一貫したストーリーになっていること。もうひとつは、経験、気付き、問題意識・テーマ、社会的意義、解決すべき課題・解決策、志望大学が最適である理由、将来の

壁にぶつかっても逃げないで  
 早めに準備し  
 推薦・AO入試対策のポイントは、計画的に勉強・準備すること。そうすれば一般入試との両立も可能です。

推薦・AO入試は、誰にでもチャンスはあり、社会人基礎力も身に付けることができると藤岡慎二氏

夢・志の7つの要素が組み込まれていることです。小論文(レポート)とは全く別物。志望理由書はラブレターだと思ってください。

③の面接・プレゼンテーションは、複数(3～4人)の試験官と生徒1人で面接やプレゼンを行うというもので、大学側は志望理由書を書いた本人か、大学で活躍してくれる人物かどうかを見ます。必要なのは熱意です。

④の小論文は、大学から出された課題に対して、自分の考えを書くというもので、文章を書く能力が必要になるので、中学生の時から練習しておいてください。推薦・AO入試の半分以上が小論文を課しています。

⑤のグループディスカッションは、与えられた課題に対して、少人数のグループで話し合い、結論を出して、最後にグループの1人がプレゼンするというもの。大学側が見たいのは、人の意見を聞く力、自分の意見を言う力、協力して物事を進める力です。推薦・AO入試を行っている大学の1割くらいが実施しています。



立命館大学経営学部国際経営学科をAO入試で進学した野美波さん

逆にしてほしくないことは、8月スタートといった、直前での入試対策。遅くとも高3の春にはスタートしましょう。

最後に、推薦・AO入試の受験対策としてできることについてお話しします。高校1年でキャリアに気付き、2年でキャリアを積み、3年でキャリアを整理し、PR。こういう3年間を送れば、一般入試との両立も可能です。

具体的に言うと、勉強面では、高1の時から学校の学習をしっかり行い、評定を落とさないよう、定期的な試験対策をきっちり行います。高2の夏過ぎからは、一般入試を意識した学習もしていきましょう。推薦・AO入試では3年間の評定が問われるので、継続的に細く長く、学力を身に付けていきたいものです。勉強面以外のことは、高1の時は学校の部活・委員会活動、学校外のNPOやボランティア活動などに参加し、活動のチャンスを見つけます。集団・チームで行っている活動への参加をおすすめします。高2では

中心に入り込んで行き、壁・障害・課題に果敢に挑戦していきましょう。夏に行われるコンテスト類にも、高2で挑戦を。高3になったら、出願書類などの準備・対策を行い、受験に臨みましょう。

推薦・AO入試は、倍率も3倍程度で、そんなに難関ではありませんし、一般入試よりワンランク上の大学に合格できることが結構あります。高校での過ごし方、対策の仕方次第では、誰にでもチャンスはあります。社会に通用する社会人基礎力も身に付けることができる入試といえます。早めに準備をして、挑戦してみたいかがでしょうか。失敗してもいいから行動し、壁があっても立ち向かって、逃げないでほしいと思います。

志望理由書の一例として、立命館大学経営学部国際経営学科のAO入試に合格し、今春進学した野村美波さんのエントリーシートが配られ、本人が参加者の前で講演した。また、慶應義塾大学SFCのAO入試に合格した女生徒の志望理由のプレゼンが、プロジェクトを使って紹介された。

講演後には、質疑応答の時間も持たれた。さまざまな質問が飛び出し、夜遅い時間にもかかわらず、参加者全員、最後まで熱心に耳を傾けていた。

# 多様化する大学入試ガイダンス ～推薦・AO入試でワンランク上の大学へ～

2012年3月31日(土) 於/アステ川西5Fホール

講演者/藤岡慎二氏(株式会社GGC代表取締役)

主催/個別教育フォレスト・学習教室サクセス



大学受験が日々刻々と変化する昨今。私立大学だけでなく、国公立大学でも推薦・AO入試で合格を勝ち取る生徒が増えている。そこで、推薦・AO入試に関する詳しく正しい知識をもってもらおうべく、兵庫県宝塚市の個別教育フォレスト(代表・安多秀司氏)と、伊丹市の学習教室サクセス(代表・岩田英証氏)が、推薦・AO入試対策の第一人者、藤岡慎二氏を招き、塾生・保護者を対象とした講演会を行った。

## 学生としての力を 総合的に問う推薦・AO入試

大学入試は、最近、実に変化してきました。1990年に導入されたAO入試も年々多様化し、同じ入試方式を行っている大学は2つとなりと言われるほどです。今後ますます多様化していくと予想される推薦・AO入試の対策を通じて、社会に貢献できる人材になろう、ワンランク上の大学へ行こうということをお伝えしたいと思います。

推薦・AO入試についてのお話の前に、大学とは何かということを理解する必要があります。大学は高校までと違って、学校ではないんです。大学は教育研究機関で、まだ答えがわからないことを教授や関係者、学生たちみんなで議論しながら研究して、答えを見つけていくところです。つまり、自ら物事を突き詰めて、明らかにすることが求められます。

高校までは生徒で、大学から学生になります。学生として求められる力とは、①基礎学力、②人物像(主体性)、③大学で学ぶときに必要な力(周囲巻き込む力、リーダーシップ、プレゼン力、コミュニケーション能力など)、④明確な目的意識(問題発見能力)。これら4つの力が必要です。一般入試

## 過去・現在・未来に 一貫性がある志望理由が重要

次に、推薦・AO入試の入試方式についてお話しします。

主に、①評定平均、②志望理由(志望理由書、自己推薦書、エントリーシート)、③面接・プレゼンテーション、④小論文、⑤グループディスカッションの5つに分類されています。多くの場合、一次試験として①、②、二次試